

# 宮津地区将来構想の骨子案

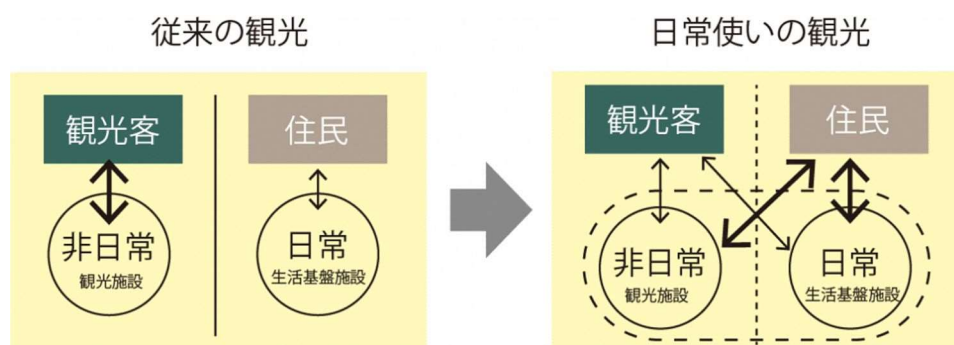
## 1. 基本方針

### 「日常づかいの観光」の推進

コロナ禍にあってもまちを支えるのは、宮津で「日常」を送る居住者です。これに加え、熊本市との交通利便性が向上する将来に向けては、1時間圏内の上天草市出身者やその知人など日常生活の延長で訪れる人々、都心からのこれまでの観光ではなく地方の豊かな暮らしを志向し、仕事との両立を目指す人々等、「日常づかいの観光」を推進していきます。

「日常づかいの観光」では、市外からの来訪者や移住者と、既存居住者との交流が地域の新しい活力を生み出します。そのため、海や夕日の美しさなど、宮津地区にしかない環境を生かし交流の場や機会を創出していきます。

また、上天草市観光ブランディング計画におけるブランドコンセプト「ナナメ上ノ上天草」を形成する本市の魅力「モノ」、「トコロ」、「コト」、「ヒト」を宮津地区は全て含んでおり、これら地域資源の磨き上げを行うことで、観光地としての更なる魅力化を図っていきます。



上天草市観光ブランディング計画とは・・・

上天草市に数多く存在する地域資源を活かし、旅行の訪問地として選ばれる「観光地」になるため、観光ブランド力を向上させる戦略を立て、多彩な魅力の強化、情報を発信することで、本市の観光ブランドイメージを確立していくための取組みについて定めた計画。

「モノ」・・・海や大地が育んだ豊かな食材と天草四郎を象徴とする歴史文化のある上天草

「トコロ」・・・青く美しい海と島々、天草五橋が織りなす風光明媚な上天草

「コト」・・・温泉に癒され、海と山のレジャーが楽しめる上天草

「ヒト」・・・親切で誠実なおもてなしの心が溢れる上天草

## 2. 宮津地区の将来像

### 「シーサイドリビング」

海辺に面した宮津地区全体を一つの施設（家）と捉え、公園を自宅のリビングに見立てることで、リビングを中心にくつろぎ、人との交流の場を促進し、快適な生活を送るための動線を確保する等、各公共施設がリビング（公園）を中心に機能するエリアを目指します。



#### ◆居住者と来訪者が出会い交流するアウトドアリビング

市外から宮津地区に自ら訪れ、暮らし、この地区のために何か貢献したいと思う方々にとって、この地区の人の温かさは大きな魅力となっており、お互いが交流できる「まちのリビング」が必要です。

そのため、宮津地区に集約している公共施設や公園等を効果的に活用するとともに、施設間の動線を確保することで、居住者と来訪者がまちの中で出会い交流するアウトドアリビングを促進する場や機会を創出します。

#### ◆暮らすように旅する、旅するように暮らせるまち

リモートワークの普及により、市外の人々にとって、宮津は観光の場であるとともに仕事の間ともなります。また、長期滞在や移住にあたっては、スーパーや役場などの生活利便施設が近隣に集積することは大きなメリットです。一方、来街者が多い観光施設やイベント等は、居住者にとっても日常に刺激を与えてくれるものでもあります。

そのため、来訪者にとっては暮らすように旅ができ、居住者にとっては旅するように暮らせるようなまちづくりを推進します。

#### ◆上天草市観光の玄関口

宮津地区は、上天草市の玄関口となる場所で、上天草市を訪れる観光客の最初の目的地となることから、各観光エリアへの案内・誘導機能を充実します。

### 3. 将来像の実現に向けた取り組み

現況と課題を踏まえ、将来像の実現に向けて以下の取り組みを行います。

#### (1) 動線の整備

##### ①緊急動線の確保

消防署から国道 266 号線へ、スムーズな動線を確保し、熊本天草幹線道路の開通に伴う高度医療施設が整う熊本市へのアクセスを向上します。

##### ②回遊動線の整備

天草四郎公園内の新図書館の新設に伴い、国道 266 号線による地区の分断を解消する陸橋や、各施設を有機的につなぐ遊歩道等の検討を行い、宮津地区全体の回遊性を高めます。

##### ③海辺の動線整備

海に開けた宮津地区の魅力を活かすため、スパ・タラソ天草から水産研究センターまでの海辺をつなぐ動線を確保します。

#### (2) 公園・広場を中心とした施設の再編

宮津地区の中心部に位置する宮津海遊公園及び大矢野農山村広場公園や各施設を再編し、公園の利便性向上と各施設の連携を図ります。また、回遊動線の整備で接続する天草四郎公園は、歴史と自然環境が豊かな宮津地区の特性を活かした新大矢野図書館と一体的活用を行うことで地域全体の活性化を図ります。

#### (3) 施設機能の強化・充実

○観光の起爆剤としての図書館

○福祉と観光の融合

○海とのつながりの強化（里海資本主義、農林水産物加工、アクティビティの充実等）

#### (4) 地区の顔となる景観づくり

宮津地区は、公共施設が集積した観光地でありながら、景観（色・形・サイン等）に統一感がないため、サインやランドスケープ、施設等の具体的な景観づくりの指針となるデザインガイドラインを策定し、観光地としての魅力向上に向けた景観づくりを推進します。

#### (5) 自然環境を生かした体験や、居住者と来訪者が交流するソフト事業

パルラインマラソンやえびリンピックなどの既存の大型イベントに加え、海辺の立地や海産物を活かした日常的な体験事業を創出します。

## 4. 土地利用方針の検討

将来像の実現に当たっては、本市が置かれている財政状況や土地の確保の観点から検討していく必要があります。

まず、本市の財政状況は、新型コロナウイルス感染症対策に加え、頻発化する災害などにより、令和2年度は、過去最高額の予算規模となる見込みであり、令和3年度以降の財政見通しについても、人口減少や新型コロナウイルス感染症等の影響により、普通交付税の減額や市税の減収が見込まれることから、これまで以上に厳しい財政運営に取り組む必要があります。

土地の確保については、宮津地区にある市有地は合併前の大矢野町時代から個別に施設整備が行われており、空いている市有地がほとんどない状況です。

これらの状況から表1の3つのケースについて検討し、それぞれメリット、デメリットについて整理しました。

なお、それぞれの評価は段階的におけるものであり、将来については整備を進める中で、需要を勘案しながら柔軟に対応していくことが重要と言えます。

表1. 土地利用の条件による将来構想の比較評価

	ケース1	ケース2	ケース3
	新たな土地の利用が見込まず既存施設等を活用した場合	既存施設等を解体し、新たに施設等を整備する場合	既存施設等は残したまま、海面を埋立て新たに利用可能な土地があった場合
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業を継続しながらの整備が行いやすい</li> <li>○事業費を抑えられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書+ミュージアム+公園などで複合化することによって、市民や来訪者にとって魅力が増大する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広大な用地が確保できる</li> <li>○観光として水産業との連携が期待できる</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単独の事業のため、地区全体の課題解決や波及効果につながりにくい</li> <li>○事業形態の大きな変更には対応できない</li> <li>○施設の老朽化によりいづれ建替えが必要となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調整に時間がかかる</li> <li>○まとまった予算が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大規模な予算が必要</li> <li>○環境への影響</li> <li>○中心部の移動（現中心部の空洞化）</li> </ul>
構想実現に向けたスケジュールとの対応	<p><b>短期的な対応</b> →</p> <p>緊急を要する整備や既存の整備事業などを、将来像を見越して実施する期間</p>	<p><b>中期的な対応</b> →</p> <p>現在計画中あるいは設計中の事業を、将来像を見越して実施する期間</p>	<p><b>長期的な対応</b></p> <p>整備を段階的に進めていく中で、需要に応じて推進または見直ししながら実施する機関</p>